

すぎやまそうんじゅひ 杉山巢雲 寿碑

池田八幡神社境内

杉山巢雲先生の銅像
北アルプス展望美術館で見られます



巢雲はもと松本藩の武士でしたが、天明8年(1788)に池田学問所がつくられたときに招かれ、初代の先生として子どもたちの教育にあたりました。その教えは、そのころ寺子屋で行われていた、読み・書き・そろばんのほか、中国から伝わっていた儒学という学問をもとにして、人を育てることを大切にされた教育をしました。「みがけただみがけば光る玉ほこの 道の中なる道を尋ねて」の歌にも、学ぶ気持ちへの強い期待があらわれています。

教えを受けた子弟のはからいで、文政11年(1828)に池田の八幡神社境内に寿碑(人の徳をたたえる碑)が建てられました。寿碑のことは京都の有名な学者、頼山陽によるものです。

人々は寿碑を削ってお守りにしました。しかし、そのため寿碑が傷んでしまったので、昭和44年(1969)に、新しい寿碑が建てられました。

いけだがくもんじよ 池田学問所とは

8代将軍徳川吉宗は、一般の人々の教育が大切であると考え、それを日本中に行き渡らせるようにしました。(1716年〜1735年頃)

その頃、学問を学ぶのは武士以上の人たちでした。松本藩の学校(藩学校)は宝暦元年(1751)頃から始まりまし。

池田の先生(手習師匠)も同じ頃、活動を始めました。池田の豊かな米の生産と経済の発展が、教育の気風を高めたと思われる。

それまでの教育は寺子屋や手習所といわれ、貧しい人は学ぶことができませんでした。

しかし池田では、村中の人々が、すべての子どもたちに学問を学ばせることを願い、お金を出し合って、吾妻町にある林泉寺(仁科氏建立)のかたわらに立派な校舎が建設されました。そして「池田学問所」と名づけたのです。校舎に名前をつけ、村中でお金を出し合い、貧富の差も、男女の区別もなく村の子どもすべてに学ばせた学校は、全国的にも大変めずらしいものでした。

学問所には300人ほどの子どもたちが学び、その中に70人もの女の子がいたのも江戸時代ではなかったことでした。その頃の、ひとつの寺子屋は生徒が10数人くらいが多かったときに、300人も生徒がいたことも驚きです。

授業は朝6時から8時まで読書、10時から4時まで習字。年齢は7歳から15歳までの8年間通い、クラスは11組もありました。

池田学問所の建物は、安政3年(1856)の大火事で焼けてしまいましたが、2年後に寄付金によって再建され、明治5年(1872)筑摩県の学校「池田学校」が置かれるまでの84年間にわたって5代の師匠により、池田の大切な教育の場として多くの子どもたちが学んでいました。

杉山巢雲先生寿碑

信濃に郷先生あり巢雲と曰ふ。名は茂樹字は瑞翼一の字は亮蔵松本藩の人なり。姓は杉山氏相模の土肥より出づ徹翁なる者あり。来って藩士松井氏の嗣となり所適を生む所適二男あり。先生はその少なり。天明中仕を辞し城西に隱居す。是に於て杉山氏に復す。城を距る七里の所に池田村あり。村中の長老膏議り先生を招き、郷の童蒙に教ふるに小学を以てす。先生指導して捲まらず四十年一日の如し。今茲文政戊子先生令六十五。寿碑を建てんが為に邑人某をして来つて余に銘を請はしむ。余之を拒んで曰く。今世の文士紀するに足らざる者に於ても輒ち石を立て文を彫る。軽浮の習ひ吾の常に鄙厭する所なり況んや其の人一面の素無し安くんぞ能く之を状せんやと、某の曰く先生の我が郷に來りてより風俗日に敦厚に趨き人々非をなすを愧つ蓋し先生の化の致す所にして唯に童子の師たるのみにあらざるなり。故に相与に謀り後の人をして風の自つて継ぐべきを為すを知らしめんとするなりと。余襟を正し危座して曰く。苟に然れば余安くんぞ敢て為らざらんやと。乃ち之が銘を為る曰く。隠れて而も事立つ仕ふるを必せず。芸と行と併せ化閭里に被むる紅塵の市に据り烏合の土を教ふ吾若人に於てや愧づること有り文政十一年歲戊子に在り春正月山陽外頼襄撰并びに書

昭和四十四年四月建立